

久々利の歴史年表

時代	年号		
石器			
縄文			
弥生	(後期)	岡本山横穴石器掘りの異説があった	
	74年頃	久々利銅鐸が祭事に使われたという 景行天皇美濃に行幸されたという	
古墳	(後期)	久々利、平牧に横穴墓が造られた	
飛鳥	677年	木簡に美濃、可児、久々利の地名	
奈良	720年	日本書紀に景行天皇、八坂入媛、弟媛、 八坂入彦が記帳される 万葉集などに泳宮の歌あり	
平安	1025年頃	久々利・明智・帷・荏戸・大井戸の各荘園開かれる	
鎌倉	1282年	久々利八幡神社の神輿を作る	
室町	1342年頃	土岐氏明智城を築く 後に久々利城を築く	
戦国	1487年	丸山圓明寺に同年銘の石仏	
	1570年頃	加藤景豊大平で窯を築く	
	1580年頃	加藤景成大萱で窯を築く	
	1583年頃	久々利城落城	
江戸	1601年	千村家久々利に屋敷を構える	
	1619年	久々利、羽崎、大森が尾張藩領となる	
	1771年頃	大平で瓦焼きが始まる	
	1819年	千村仲雄「泳宮考」を著す	
	1848年	久々利八幡神社へ狂俳額を奉納	
	1858年	白山神社へ狂俳額を奉納 久々利大火、40軒(95棟)焼失する	
	1868年	千村家、尾張藩の倒幕に加わる	
明治	1875年	久々利村誕生 (久々利村、酒井村、我田村、平柴村、 原見村、佐渡村、丸山村の合併) 「八坂入彦命墓所」を県が認定	
	1882年	久々利郵便局開局	
	1887年	久々利高等学校開校	
	1889年	久々利村・柿下村合併	
	1890年	久々利巡査駐在所設置	
	1899年	久々利公設消防組発足	
	1905年	久々利村青年会結成	
	大正	1917年	久々利村で婦人会組織
		1952年	中部中学校開校、大平の開拓始まる 小淵ダム完成(1949年着工)
	昭和	1953年	柿下ため池完成(1947年着工)
1954年		久々利保育園開園	
1968年		東明小学校開校	
1971年		荒川豊蔵氏文化勲章受賞	
1973年		久々利公民館、可児郷土歴史館開館	
1977年		久々利保育園、鉄骨平屋建に改築	
1978年		久々利生産森林組合設立	
1984年		豊蔵資料館(現荒川豊蔵資料館)開館	
1986年		陶芸苑完成	
平成		1996年	ふれあいパーク・緑の丘開園
	2005年	東海環状自動車道開通	
	2010年	集中豪雨で久々利と平牧で 71件の浸水被害	
	2013年	久々利苑開設	
令和	2015年	二野工業団地造成完了	
	2018年	市重要無形文化財技術保持者(陶芸)を選定	
	2021年	久々利診療所67年間に亘る診療を終了	
	2022年	久々利川下流域河川改修完了	
	2023年	加藤孝造氏工房を可児市に寄贈	



銅鐸



景豊碑

景成碑



泳宮図会



久々利村役場



小学校門柱



集中豪雨後の橋

久々利の歴史秘話

鎌倉・安土桃山に文武を高めた土岐氏

清和天皇の孫が土岐氏となりました。第三代の美濃守護職土岐頼康や弟の土岐康貞(久々利悪五郎)らは朝廷側に就き承久の乱(大井戸の戦い)は鎌倉側に負けました。朝廷側は正中の変で悪五郎や多治見国長と天ヶ峰の洞穴で倒幕を密談を試みましたが失敗、その後、足利尊氏による元弘の変で勝利します。悪五郎は足利室町幕府を支える一翼を担い、久々利城築城と城下造りを行い、久々利八幡神社や長保寺、圓明寺などの建立・再興も進めました。また、土岐氏は武家衆に和歌、能、絵など文を高め、光秀、織部らを輩出しました。



天が峰洞穴

難攻不落の久々利城と前線砦の羽崎城

久々利城築城は土岐康貞(悪五郎)が晩年に着手し、長男久々利太郎が継ぎ完成し、その後、三男羽崎三郎が羽崎城を築城しました。久々利城は、敵との対立に備え何段もの曲輪を備える室町時代様式の難攻不落の山城でしたが、1583年金山城主森長可に謀殺されると落城しました。森氏により横矢や虎口が導入され戦国時代後期の様式も残す貴重な山城でした。その後時代の流れとともに荒れ果てましたが、2011年から城跡整備が進められています。



羽崎城跡



久々利城跡

江戸期に文化・文芸を広めた千村家

千村家は江戸や名古屋に屋敷を拝領、高い見聞を得て、山車曳祭りの沼致や武士と農民が共に使用できる水路を巡らすなどの屋敷まち整備をし、東禅寺、友圓寺、八劔神社も建立しました。文芸では俳諧を美濃に広め、身分を問わず多くの俳人を出す文化が生まれました。それが八幡神社や白山神社の俳諧額奉納や村芝居などの娯楽に寄与しました。千村家9代仲雄が国学の本居門下で「泳宮考」を著し、子の仲泰は英学、医学、植物学に秀でました。



万葉歌碑

文化人を輩出する久々利の風土

久々利の風土は多くの文化人を輩出しました。千村仲雄の従弟仲精(五郎)は江戸で英語塾を開き、門下に福沢諭吉がいました。千村家侍医西山玄道の子伊藤圭介は、久々利の浅井・西山療院に訪れ共に植物採取や標本を作ることあり、理学博士第一号の東大教授で「近代植物学の祖」ともいわれ「雄蕊 雌蕊 花粉」の名づけ親です。西山療院は久々利診療所の基礎となりました。サクライソウの加藤新市、さらにはベビーブックの海老衣子をも生み出しました。ベビーブックは母子手帳となり海外50ヶ国に普及し母子を守っています。文化人を輩出する風土は、陶芸家などの人々に受け継がれています。



ベビーブック